

一般社団法人 日本食品添加物協会 御中

## 食品添加物認識・意識消費者基本調査：2017/11 「“無添加・不使用”表示」

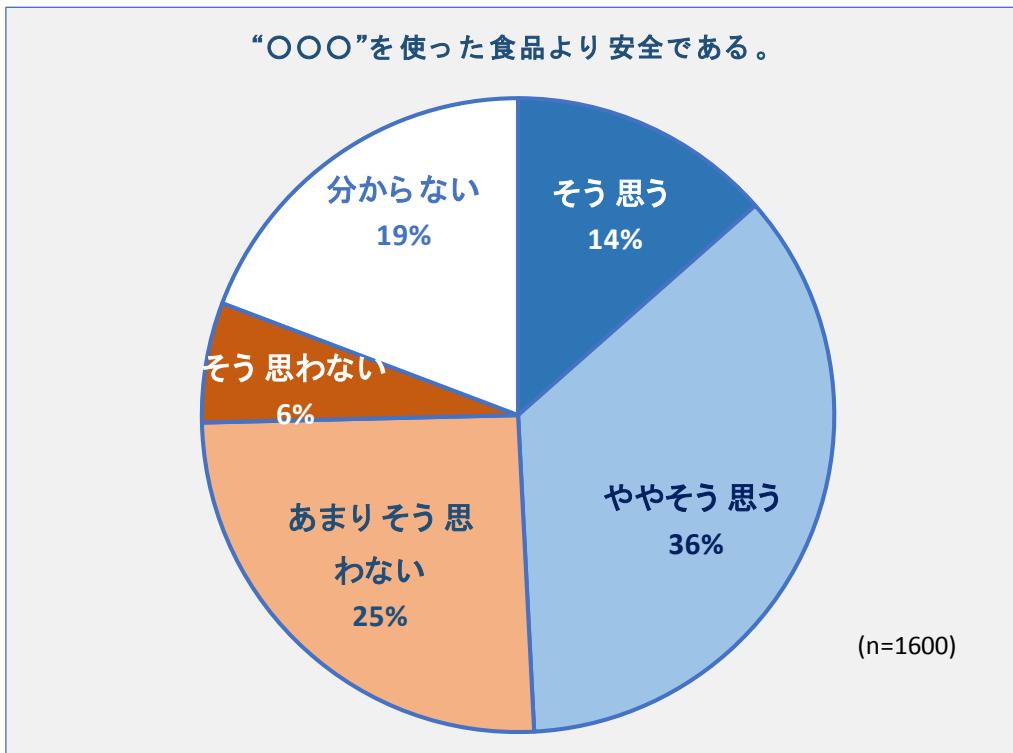
### --- 調査結果概要報告書 ---

1. “無添加・不使用”表示商品の認識（安全性）
2. 事実認知後の“無添加・不使用”表示規制に対する意識
3. “無添加・不使用”表示商品購入経験と決定要因
4. “無添加・不使用”表示商品の認識
5. 添加物認可に対する理解
6. 事実認識後の“無添加・不使用”表示に対する意見

調査目的	“無添加・不使用”表示商品に対する一般消費者の認識を明らかにする。
調査手法	Webアンケート調査
実施期間	2017年10月31日(火)～11月2日(木)
調査対象	男女15～74歳 食品購入経験者 計1600人 (男女各800を人口比で割り付け)

2017年11月30日  
株式会社 エム・ディ・アイ ラボラトリ

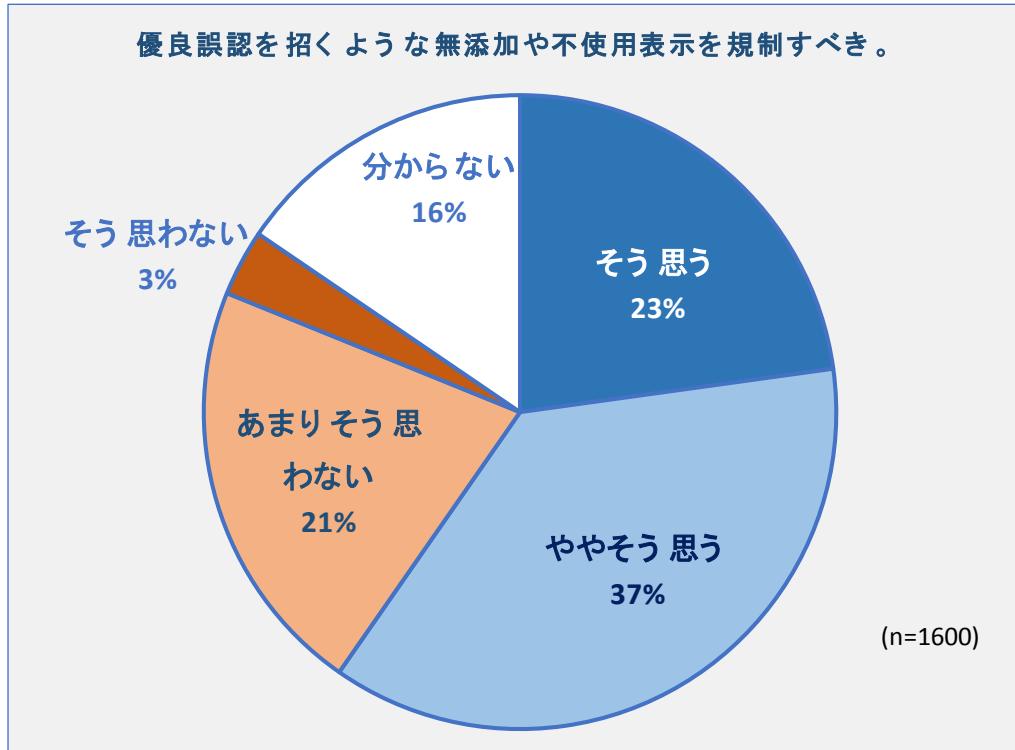
Q “〇〇〇無添加”・“〇〇〇不使用”が表示された食品は、  
食品添加物〇〇〇を使用した食品より安全であると思いますか？



多くのひとが“無添加・不使用”表示商品の方が安全だと思っている。

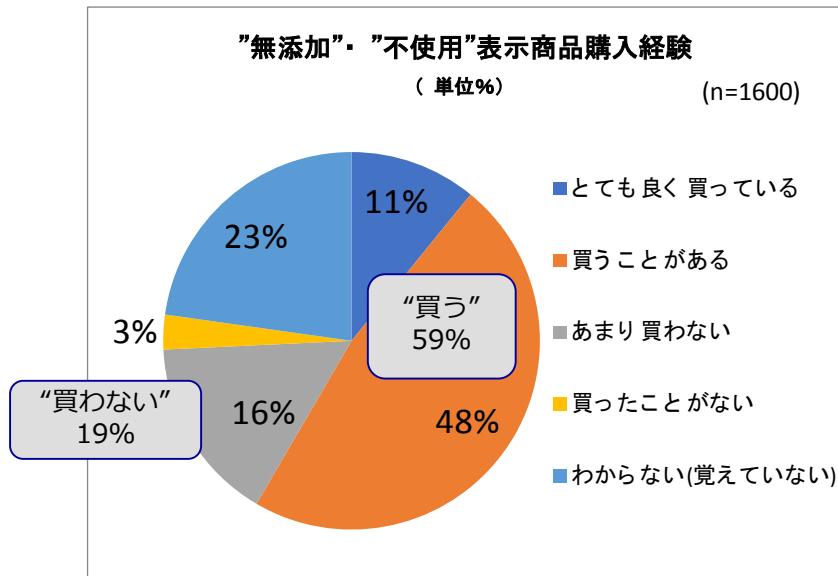
(『①国により認められている、②同一成分・同じ機能の成分が含まれている場合がある』ことを伝えたあと)

Q 優良誤認を招くような無添加や不使用表示をもっと規制すべきだと思いますか？



国により認められていること、同一成分や同じ機能の成分が含まれている場合があることを認知した場合、  
“無添加・不使用”表示を規制すべきとの意見が多くなる。

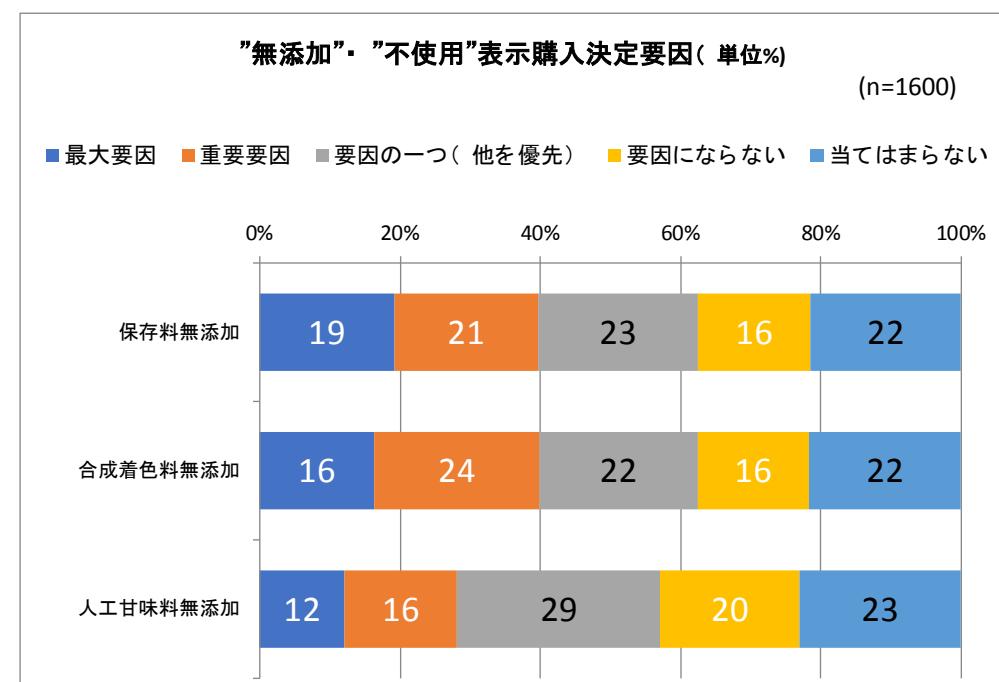
Q “〇〇〇無添加”・“〇〇〇不使用”が表示された商品を普段どの程度お買いになりますか？



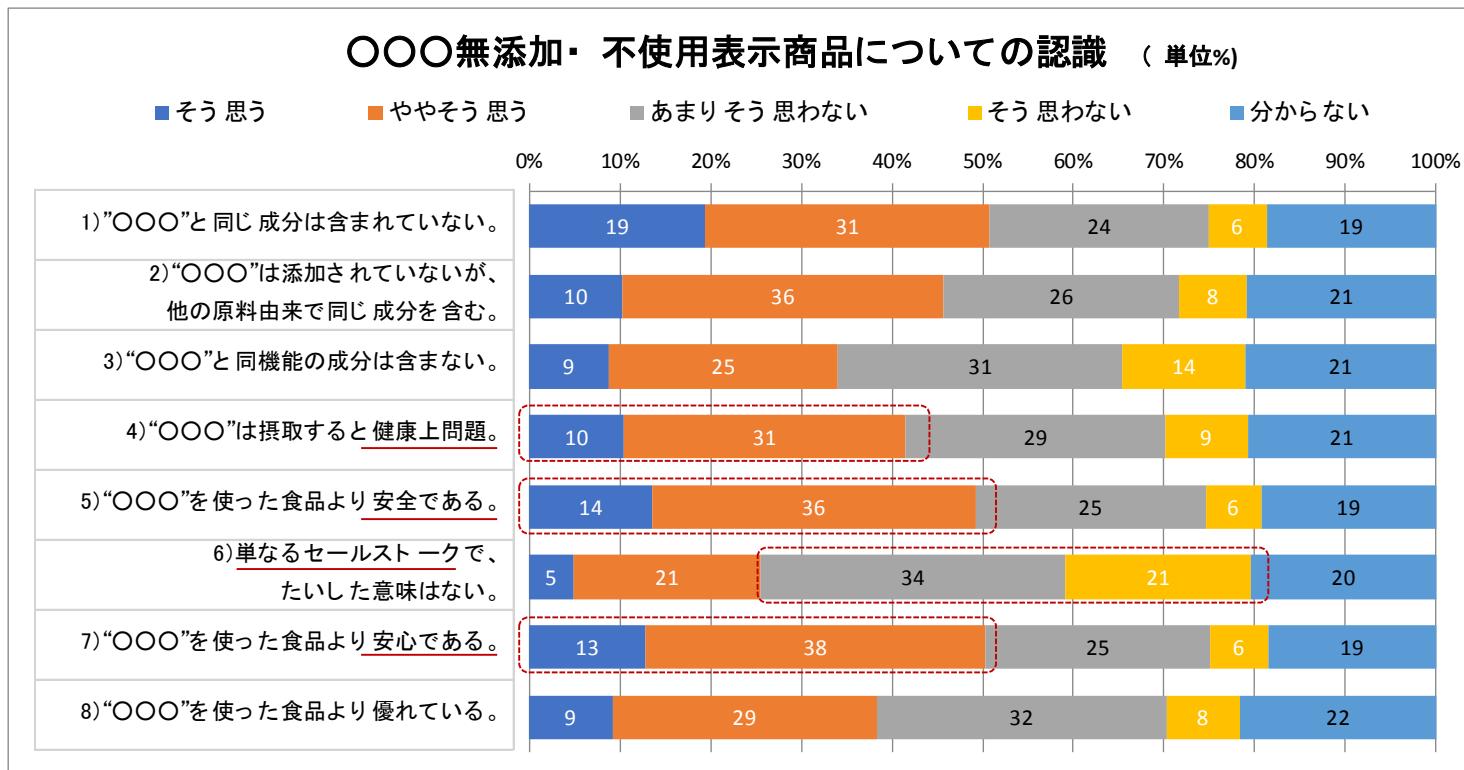
“無添加・不使用”表示商品をよく購入する+買うことがある”人は全体の6割弱で、“あまり買わない+買わない”人は2割弱。“わからない（覚えていない）”が2割強いる。

Q 食品を購入される時に〇〇〇“無添加・不使用”表示はどの程度購入の決め手になりますか？

購入決定時に“最大の要因”とする人は保存料(19%)>合成着色料(16%)>人工甘味料(12%)  
“重要要因”まで加えると保存料と合成着色料は4割。

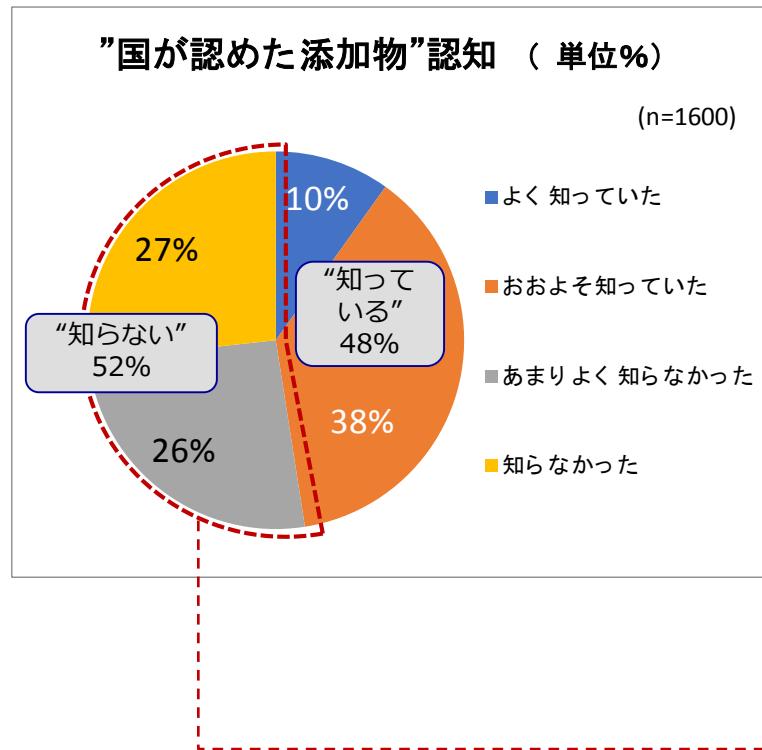


Q “〇〇〇無添加や”〇〇〇不使用”という表示のある食品を見た時に  
以下の項目についてどのように思いますか？



“無添加・不使用”表示についての認識は、“思う”、“思わない”などはっきりした意見よりも“やや”、“あまり”などの回答が多数を占めているが、“〇〇〇”が健康上問題、“無添加・不使用”はより安全・安心で、こうした表示が意味があるという状況が定着している。

Q 有害のおそれがないとして国が認めたものしか食品添加物として使用できないことをご存知でしたか？

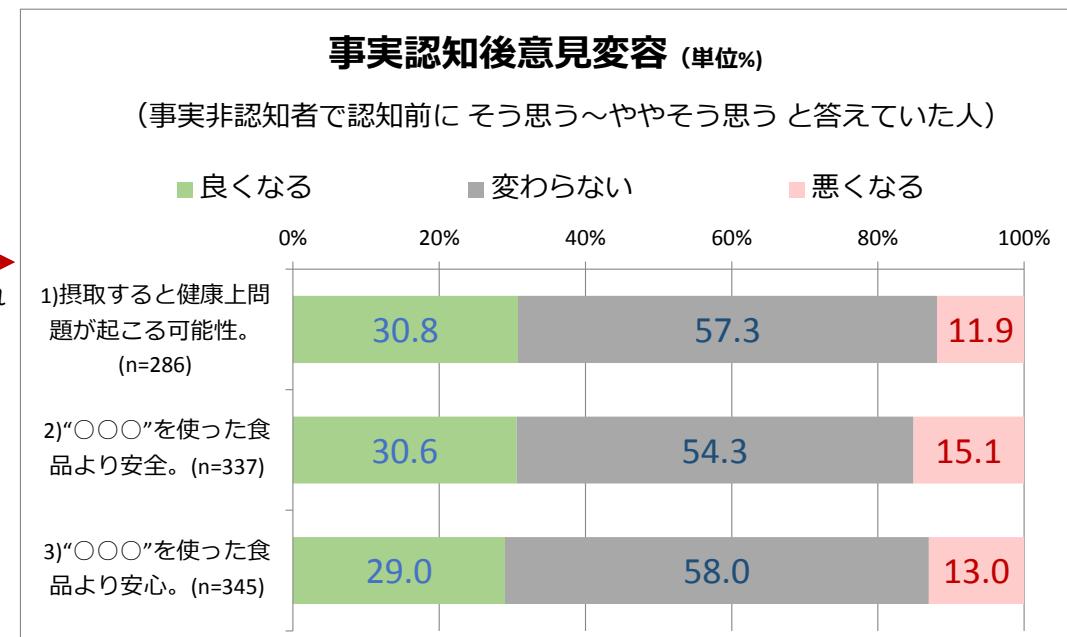


“知らない”n=837の内、事実認知前に1)～3)の設問でそれぞれ  
そう思う～ややそう思う  
と答えていた人のみ抽出して事実認知後の意見変容を見る

事実を知らないで認知前に“無添加・  
不使用”表示商品の方を評価していた  
人の内約3割は事実認知後は添加物に  
に対する考え方が良化している。

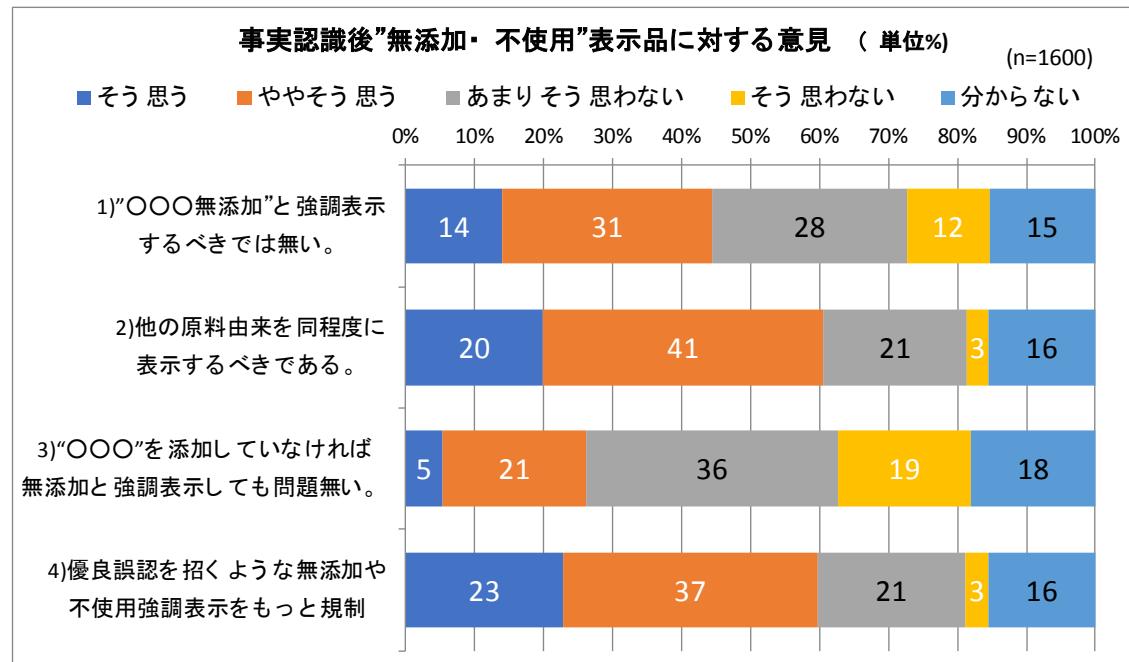
添加物は国が認可したものであることをある程度  
知っていた人は計48%で非認知より約4ポイント少ない  
がそれ程大きな差はない。

Q (“国が認めた”事実を知らない人に)  
「使用されている食品添加物は有害のおそれがないと国が認  
めたものである」という事実を知った時、あなたの以下に対  
するご意見はどう変わりますか？



## 6. 事実認識後の“無添加・不使用”表示に対する意見

Q “〇〇〇無添加や”〇〇〇不使用”という表示があつて、“〇〇〇”と同じ成分や同じ機能の成分が含まれていることがあります。この事実を知つた時、以下のことについてあなたはどのように思いますか？



購入時、横面・裏面を確認して購入する人は、他原料由来の表示希望など、強調表示の規制を望む人がさらに多くなっている。

強調表示をすべきでないという意見は2分。他の原料由来を同程度表示すべきとの意見は6割の人から支持を得ている。“無添加・不使用”強調表示が問題ないと思う人は3割以下であり、多数(55.8%)は問題と思っている。強調表示の規制強化を求める人も約6割。

